第８１号　　平成18年８月

総合教育センターだより

目　次

・初任者研修
　実践的指導力の育成を目指して … Ｐ１~３
・学力の基盤としての国語力の育成 … Ｐ３
・不登校の未然防止と解決について … Ｐ４･５
・特別支援教育コーディネータースキルアップ講座 … Ｐ５
・校内研修等における授業研究の活性化を図るために … Ｐ６
・ITECの積極的な活用を …… Ｐ７･８
・英語eラーニング …… Ｐ８

初任者研修　実践的指導力の育成を目指して

今年度の改善点

◇ 実践的指導力の育成を目指した講座内容の拡充
◇ 講座内容をモジュール化し、連続性、発展性、適時性を考慮して再編成
◇ 初任者一人一人への支援を目指した担任制を導入し、勤務校研修との一層の連携を推進

□ 授業実践力の向上を目指して全員が模擬授業

全員が模擬授業を行ない、発問の仕方や児童生徒の発言に対する対応の仕方、間の取り方等を学んでいきます。
研修担当者からは時には厳しい指摘もあり、初任者は相互に評価し合うとともに、授業の腕を磨いています。
模擬授業を行った初任者の勤務校からは、「模擬授業の後、授業が変わった」との声をいただいています。
また、6月の授業参観実習でも、先輩教師の授業を見て、多くのことを学んでいます。

〔受講者の声から〕

○模擬授業をして、相互に評価し合いながらお互いの課題を共有することは大変役に立ちました。また、明日にでもすぐに使えることが多く、今後もこのような模擬授業の研修をとり入れてほしいと思いました。

○授業の中での発問の大切さを再認識しました。発問だけでなく教材をしっかり読むこと、子どもの学習活動や反応を予想すること、教具を考えることなど様々な工夫をすることが大切です。教室の中では、児童の意見を共感的に受け入れ、発言しやすくお互いに認め合えるクラスにしていけるよう努力していこうと思いました。

○模擬授業で児童役になることで、子どもの気持ちを知ることができました。「こういうところでつまずくのか」とか「こういう風に言われると意欲がわくのか」ということが少し分かりました。

〔担当者から〕

◇一人約10分間という短い時間の模擬授業ですが、見事な語り口調で児童役を引き付ける初任者もいれば、思いもかけぬ児童役からの発言にどぎまぎする初任者もいます。いずれにせよ何人もの模擬授業を実体験することで、児童役も授業者も共に多くのことを吸収している様子がうかがえます。これからも授業参観実習講座も含めて、よりよい授業を目指す内容へ発展させていきます。

□ 勤務校での実践と講座内容のモジュール化で相乗効果を

― 一層の連携による実践的指導力の育成を目指して ―

「学級経営講座」のモデル例

勤務校研修		センター研修
・実態に即した学級経営案の作成と実践	実践	学級経営１ 6/22 講義・研究協議 ・学級経営の内容と果たす役割 ・学級経営案の交流
・学級経営案の見直しと実践	交流	学級経営２ 7/24・31 実践発表・研究協議 ・学級経営案の工夫改善
・学級経営の振り返りと見直し ↓ ・改善した学級経営案をもとに実践	活用 協議	学級経営３ 9/28 演 習 ・学級経営上の課題解決
教育実践への反映		

〔受講者の声から〕

○４月に立てた学級経営案を今一度見直してみると、必ずしもその通りに進んでいない。もう一度、原点に立ち返り、自分が一年間大事にしていきたいこと(目標・方針)を大切にして学級経営に努めたいと思う。

〔担当者から〕

◇特に小学校や中学校では、学習指導の基盤として学級経営の力量が大変重要です。そこで、段階的・発展的に学級経営の力量を育成するねらいから、左図のように学級経営講座の内容をモジュール化しました。それぞれの担任が年度はじめに作成した学級経営案を、有効に活用しながら研修を進めているところです。
初任者が、研修の成果を勤務校での実践に生かし、さらにその実践を踏まえてセンター研修を受講することにより、実践的指導力を向上させていきたいと考えています。

講座内容のモジュール化

●勤務校での実践とセンターでの研修との一層の連携を図るため、従来センター研修として一日で実施してきた講座内容を精査し、より効果を上げるために、今年度から講座内容を分割・再構成しました。

〔勤務校の校長の声から〕

○研究協議会に参加して、今年度からセンターが初任者研修の改善に向けて重点的に取り組んでいる様子がよく分かった。以前の初任者研修に比較して、今まで以上に勤務校研修が大変重要になり、かつ内容的な面でも校内でもやりやすくなったように感じている。初任者の健康に留意しながら研修期間が終われるように気を配っていきたい。

〔指導教員の声から〕

◇今年度は、講座内容のモジュール化、担任制など今までの研修と違って新しい形で研修を進められており、以前に比べてスリムで充実した形になっていると感じました。特にモジュール化に関しては、大変興味があり一回目の講義のあとでは私が担当する初任者の先生に聞きながら、自分の新規採用の頃を思い浮かべながら話を聞くことができてとても参考になりました。とにかく初任者にとって意味のある研修になることが大切です。自分自身や先輩教職員が勤務校でその一助になれば幸いです。

□ トークセッションで具体的な助言 ― センター所員が小グループの担任として ―

今年度、新たにトークセッション（年間７回）を設けました。
センターにおける担任は、様々な参画型の演習や小グループの話合いにも参加し、初任者の指導力の課題を明らかにしつつ、一人一人に応じて助言をしています。
また、スピーチの時間を設け、表現力の向上も目指します。

〔受講者の声から〕

○自分が日々悩んでいることについて、他の先生がどうされているかを知り、自分の指導について見直すことができました。児童の実態に合わせて実践していきたいと思います。

○トークセッションでは、他の先生と交流することによって、自らの実践を振り返ることができました。特に、反省点が明確になり、今後どうすべきかを考えるよい機会になりました。

〔担当者から〕

◇トークセッションでは、限られた時間内に的確に話す表現力の育成もねらいの一つとしてあげています。6月には２分間スピーチを行いましたが、話すことがうまく整理できず中途半端に終わったり、話すことのみに集中して相手に伝えるという意識が弱かったり、いろいろと課題も見つかりました。これからも、児童や保護者に分かりやすく伝える力を育てていきたいと考えています。さらに、トークセッションでの内容は、勤務校にもお伝えするなど連携を図っています。

学力の基盤としての国語力の育成

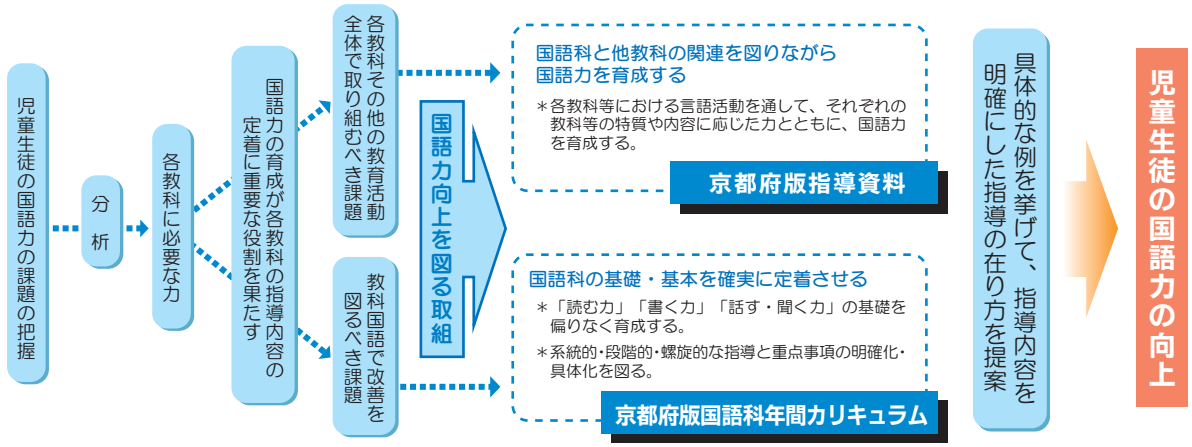
センターでは、所内に国語力向上プロジェクトチームを設置し、今年度新たに立ち上げられた「京の国語力向上プロジェクト会議」と連携を図りつつ「京都府版指導資料」の編集に取り組んでいます。
また、7月上旬に行った「**小学校基礎学力充実講座**」では、平成18年度小学校基礎学力診断テストの結果分析を踏まえ、国語力育成を重視して以下のような授業改善のポイントを提起しました。

国語科では、
- 文章を正確に読み、論理的に考え、表現するために、文章構成について筆者の意図に注目すること
- 指導内容の三領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）と言語事項とを関連付けた授業づくりを進めること　など

算数科でも、
- 問題の場面を理解する力や論理的に説明する力を付けるため、文と図から必要な情報を取り出し、それらを関係付けながら正確に読み取ること
- 自分の考えを整理して文に表したり、根拠を明らかにして説明したりするなどの学習活動を採り入れること　など

併せて、国語力向上の視点から、「国語力アップ促進」講座の拡充など、講座内容の充実にも努めています。

■ 京の国語力向上プロジェクト（平成18年度）



センター講座から

不登校の未然防止と解決について

ＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症等の状態を示す児童生徒がいじめの対象になったり不適応を起こしたりする場合があり、それが不登校につながるといった課題（二次障害）が指摘されています。そのため、**特別支援教育、生徒指導、教育相談の総合的な観点からの不登校未然防止へのアプローチが大切**と考え、ＬＤ、ＡＤＨＤ等研究講座をはじめ生徒指導研究講座、初任者研修、校長講座等でも、この一貫した観点を研修内容の柱の一つとして実施しています。

講座「ＬＤ, ＡＤＨＤ等研究講座」（６月29日・７月５日実施）

特別支援教育

講　義「LD、ADHD、高機能自閉症等の理解と支援」

大阪教育大学 名誉教授　竹田　契一先生

特別支援教育コーディネーター養成「ＬＤ、ＡＤＨＤ等」講座及びＬＤ、ＡＤＨＤ等研究講座では、大阪教育大学名誉教授の竹田契一先生から、小･中･高等学校の実践発表とも関連させ、ＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症等の認知や行動の特性及びそれらへの支援方法について、たくさんの事例を、時にはユーモアを交えながら、具体的で分かりやすく講義をしていただきました。

特に、ＬＤ、ＡＤＨＤや高機能自閉症等などの児童生徒に対して、教師の対応の仕方が大変重要で、無理解や不適切な教師の対応により、不登校等の二次障害に至るケースもあること。また、二次障害の対応について、幼いうちに障害を発見して、適切な教育支援をすることの重要性が強調されました。支援方法として、「困った子」ではなく「子ども自身が困っている」という視点に立って、行動等の背景を分析しその子にあった**指導プログラム**による対応や支援が必要であること。問題が起きた時に、すぐ対応するなど**不快体験**をため込まさせないこと。「自分を理解してくれている」**カリスマチック・アダルト**の存在が重要であり、それが親・教師である場合は、不登校等の未然防止や犯罪防止力になるケースが多いことを学びました。

講座「生徒指導研究講座」（６月２日実施）

生徒指導

講　義「児童生徒の問題行動等への対応」

京都少年鑑別所 法務技官　定本　ゆきこ先生（精神科医）

「生徒指導研究講座」では「不登校や問題行動等の未然防止」をテーマに、講義、小･中･高等学校からの具体的な実践発表、研究協議などを実施しました。特に京都少年鑑別所法務技官・精神科医の定本ゆきこ先生から児童生徒理解の観点の一つとして、ＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症等への適切な対応の在り方をわかりやすく講義をしていただきました。

児童生徒とのかかわり方については、肯定的な声かけをしていくことで児童生徒に自己存在感が育ち、意識が前向きに変化し、本人が少しずつ周囲に適応した行動がとれるように変わっていくという「よい循環」が生まれていくことを学びました。この考えについては、受講者から学級経営の中で様々な困難を抱えている児童生徒の指導に生かしていけるという声をたくさんいただきました。「**子どもを重層的に理解し発達的視点を持ち接すること**」その上で「ＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症等を理解し、**二次障害を予防する適切な対応をすること**」が大切であるということを学びました。

府民開放講座「子どものこころ セミナーⅠ」（京都大学大学院教育学研究科共催・6月3日実施）

教育相談

講　演 「子どもの成長を願う 親と教師たちへ」

京都大学大学院 助教授　桑 原　知 子先生（教育学博士・臨床心理士）

多くの府民の参加のもと、「子どものこころ　セミナーⅠ」を京都大学大学院教育学研究科との共催で実施しました。

和やかな笑いの中にも充実した内容の講演で、明日からのエネルギーとなるセミナーとなりました。参加された多くの皆さんからは、「教育は人間同士の関係性の中で動いていくものであり、『モノ』を扱うようにマニュアルを作ることはできないという講師の言葉がとても心に残った」などの感想をいただきました。

桑原先生が話されたように、例えば不登校の子どもへの大人のかかわりにおいては、「不登校の原因を調べて、処置をして、除去する」というように、「よくないことを取り除く」、すなわち「モノを修理する」かのような発想でかかわりがちです。「モノ」であるならば、同じ形をしている方が「集団」として扱いやすく、扱う側からすればその方が便利なのです。けれども、人の「こころ」は「モノを修理する」かのように、そう簡単に「変える」ということなどできませんし、「個々がもつ凹凸」を「モノ」を扱うように「同じ形にする」という発想ではうまくいかないものだと思います。

子どもが持つ「成長する力」を信じて、子どもたちに「大人たちの『こころ』のエネルギー」を注ぐということが、私達大人にできる最も大事なことであることを学びました。

きけますか？ 子どものサイン

ITEC → HOME → お知らせ から
コンテンツを閲覧できます。

子どもの「サイン」に気付いたとき、教師は子どもの声に耳を傾け、内面の理解に努めなければなりません。

不登校を未然に防ぐために、子どもとどのように関わることが教師に求められているのか等についてまとめています。

今後の校内研修会でもご活用ください。

府民開放講座「子どものこころセミナーⅡ」

日　時　平成１８年１０月２１日（土）
13:30～16:00（受付開始13:00）

会　場　京都府総合教育センター　北部研修所

講　師　東京学芸大学 教授　上野　一彦 先生
「困っている子どもの理解とその支援」

不登校の未然防止のために必要なLD、ADHD、高機能自閉症等の児童生徒への大人の関わりについて理解を深めます。

「特別支援教育コーディネータースキルアップ講座」
ＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症等の児童生徒の指導・支援を進めるために

実践的指導力や専門的力量をより高めることをねらいに、「特別支援教育コーディネーター養成講座」修了者を対象として、各教育局毎に小・中学校を会場として実施している講座です。17年度は小学校６校で実施しましたが、本年度は**新たに中学校２校**（乙訓・山城局管内）を加えた８校で実施しています。

７月に山城教育局管内の小学校で実施した講座では、小・中学校の先生方が実際に、通常の学級の授業を参観することで、子どもの教育的ニーズや認知特性を把握するための素材を具体的に詳しく学ぶことができました。加えて「適切な指導・支援をつなぐ」をテーマに「子どもを理解するためのエピソードの蓄積」、「障害名ではなく多面的な児童理解に基づく適切な手だての引き継ぎ」、「個別の指導計画の作成の工夫」についても研究協議の中で深めることができました。

今後、各学校でアセスメントや集団指導における個に応じた手だて等の研修会において参考になる内容でした。

校内研修等における授業研究の活性化を図るために

指導的力量を備えた教員の養成を目指して

本年度から新たに「小学校・中学校授業実践指導者養成特別講座」を実施しています。経験豊かな教員が大量退職する時代を迎え、各校において指導的力量を備えた教員の養成が求められています。本講座では、自己の専門性を高めるだけでなく、校内研修等における指導助言や研修をコーディネートする力量の養成をねらいとしています。

「小学校・中学校授業実践指導者養成特別講座」 年5回のシリーズ

- シリーズⅠ 6/9　講義：コーチング　演習：授業評価
- シリーズⅡ 7/26　講義：授業分析　演習：授業評価
- シリーズⅢ 10/20　演習：授業評価　研究発表・協議
- シリーズⅣ 12/26　講義：授業研究の活性化　演習：授業研究コーディネート
- シリーズⅤ 1/26　研究発表・協議　講義：カリキュラムマネジメント

◎小学校・中学校授業実践指導者養成特別講座/シリーズⅠ（6月9日）

講義「やる気を引き出すコーチング」

コーチングとは、相手の可能性を引き出し、その人の自主的な前進をサポートするコミュニケーションスキルです。校内研修等の活性化においても活用が期待されます。この講座では、コーチングの基礎知識や「傾聴のスキル」「承認のスキル」「質問のスキル」の３つの基本スキルについて学びました。

〔受講者の声から〕

○生徒、同僚を問わず、その人の可能性を引き出し、前進を促すコミュニケーションスキルについて講義から大変興味深く学ぶことができました。ぜひともこれからの教育実践に生かしたいと思いました。

演習「授業評価（よい授業とは）」

よい授業とはどのような授業なのか、よい授業のために大切な要素についてブレーンストーミングやＫＪ法を用いて学びました。グループで整理しまとめたことをポスターセッションで発表しました。また、その発表を踏まえて、講師の大学教授から的確なアドバイスを受け、授業評価についてわかりやすくまとめていただきました。

〔受講者の声から〕

○「よい授業」について、今日はじっくりと自分自身が考える機会になりました。明日からの授業で、自分自身に再度問いかけてみたいと思いました。

○演習で活用したＫＪ法やポスターセッションの技法を、今度は自分の勤務校でも校内研修に取り入れて、ぜひ実施したいと思いました。

「校内研修等における授業研究の活性化」

国立教育政策研究所　初等中等教育研究部
部長　工藤　文三 先生

校内研修の特色は、授業を日常的に観察したり、授業について協議したりすることができる点にあります。また、授業者以外の教師が児童生徒の特性等をよく知っていることも特色といえます。研修を通して、授業の課題を出し合い解決の方策を共有することによって、授業設計や工夫の視野が広がることが期待されます。

また、現在求められているのは、指導力の要素や指導力が高まるとはどのようなことか、高い指導力とはどのような状態を指すのか等の指導力向上の視点や方法です。これらのことを明らかにし、自分の授業力向上に具体化していくのも、校内研修の場が適していると思われます。校内研修は、学校運営の改善、教育課程の編成、授業改善や学習の評価、教育課程の評価と改善等多様な機能を持っています。校内研修の目的を明確にし、計画的に進めることにより、各教師の授業力を高め、ひいては学校の教育力を高めることが求められています。

（※ 工藤先生にはシリーズⅤ（1月26日）で「カリキュラムマネジメント」の講義をお願いしています。）

ＩＴＥＣの積極的な活用を

ITECホームの各ロゴをクリックすると開きます。

◆講座実施要項は、実施の前月15日にITECの講座情報に掲載しています。

総合教育センター 初任者研修情報

「初任者研修情報のページ」を新設

初任者の先生方が、センター研修で何を学び、どんな力を付けているのか、各講座受講後の受講者の声や担当所員のコメントを掲載し、勤務校での研修に活かしていただくために「初任者研修情報のページ」を設けました。

センター研修と勤務校研修が、一層つながりを強めていけるようにご活用ください。

ITEC 教育コンテンツ ナビゲーター

授業に役立つコンテンツを充実

※Ｐ８に掲載しています。

講座内容や教材・教具事例をITECに掲載し、普及を促進
これらのコンテンツはITEC教育コンテンツナビゲーターで簡単にアクセスできます。
http://www1.kyoto-be.ne.jp/ed-center/gakko/zen_contentsnavi.htm

小学校理科実験基本マニュアル

理科Ｂ区分の実験方法及びその工夫を中心に掲載しています。

また、小学校理科ベーシック講座（出前講座）で実践した実験実習をわかりやすく追加掲載しています。

http://www1.kyoto-be.ne.jp/n-center/rika-jikken/index.html

小学校理科ものづくり

各学年に応じた視点での理科ものづくりを多数掲載しています。

また、身近な素材を活用したものづくりを通して、観察する力や工夫する力を高めてください。

http://www1.kyoto-be.ne.jp/n-center/rika-jikken/mono/index.html

小学校たのしい授業のひと工夫

音楽、図画工作、家庭、体育における授業展開のワンポイントアドバイスを掲載していますので、学習のねらいに基づいて効果的に活用してください。

また、コンテンツの中には、指導者として経験しておくことで、授業に幅ができ役立つものもあります。身近な素材を活用した教材も多数掲載していますので、日常生活の中から素材を拾い出す視点を養ってください。

http://www1.kyoto-be.ne.jp/n-center/onepoint/index.html

電子顕微鏡

北部研修所に設置されている電子顕微鏡を使ったコンテンツです。電子顕微鏡操作の疑似体験もできます。

http://www1.kyoto-be.ne.jp/n-center/denken/index.html

教育情報発信

小学校教員向けに理科メールマガジンを毎月中旬に配信しています。実験観察の要点や注意点などを学年別に掲載しています。

配信を希望される場合は、北部研修所まで申し込んでください。

英語eラーニング

このシステムは、府立学校の英語科担当教員の力量アップを図る目的で本年度新たにスタートしたコンピュータによる学習支援システムです。勤務校から京都みらいネットに接続されたパソコンを使って個々のペースで学習することにより、一人一人の指導力量の向上に役立ちます。

活用しやすくするために中学校にも拡大!!

京都みらいネット以外のネットワークからも利用できるようになります。詳細は後日お知らせします。

利用者の声

TOEICの練習ユニットは30分程かかりますが、速読やリスニングは１回５～10分程度なので、授業の合間や放課後を利用してトレーニングをしています。自らの力量を高めていくことはもちろんですが、それがひいては「生徒のため」になると信じ、自己研修の一環として夏季休業中などにも大いに利用します。

１ 申し込み方法（随時）

（１）センター内部ホームページ（www2.kyoto-be.ne.jp/ed-center/）（**ITEC**）の申込みフォームに必要事項を記入し、総合教育センター宛にメールで送付する。
（２）申込みを受け付け後、対象者に対してアカウント、パスワード、研修の手引きが送付される。

２ 研修の手順と内容

（１）端末からホストコンピュータにアクセスし、教材をダウンロードします。
（２）全体の学習前に、下表（A）コースを受け、適切なレベルを確認し、教材を選択します。
（３）自分のペースで、下表（B）（C）コースの学習をします。
（４）（３）が終了したら、下表（D）コースTOEICテスト演習コースを受けて、学習後のレベル診断をすることができます。
＊各教材は、繰り返しの学習や、（A）を再度受けることによって、より難易度の高い教材を学習することができます。

【コース】

コース名		教材数	１教材の学習時間の目安
レベル診断テスト	（A）	２	約２０分
リスニング力強化コース	（B）	５０	２０～３０分
リーディング力強化コース	（C）	５０	２０～３０分
TOEICテスト演習コース	（D）	１０	３０～４０分

３ その他

夏季休業中などを大いに利用して、各自の研修に役立ててください。９月からは、当センター**英語指導助手（ネイティブスピーカー）によるライティングの添削指導教材**も**ITEC**に掲載する予定です。

府立学校教職員のための電話相談窓口　（075）612-3048
セクシュアル・ハラスメントに係る相談窓口・教育実践に係る相談窓口
木曜日（祝日を除く）　午後１時から午後７時まで

センターでは、教職員の資質能力の向上に向け、講座の体系的整備や参加体験型の研修の拡充など、より質の高い魅力ある研修講座となるよう、その充実に努めています。研修講座等に関する御意見、御要望をお寄せください。

京都府総合教育センター　〒612-0064　京都市伏見区桃山毛利長門西町
TEL（075)612-3266　FAX（075)612-3267
企画教育部　（612-2950）　教職教育部（612-2952）
特別支援教育部（612-2953）　教育相談室（612-2959）
ふれあい・すこやかテレホン（612-3268または3301）　毎日8:30-20:30（祝日を除く）
http://www1.kyoto-be.ne.jp/ed-center/　E-mail　ed-center@kyoto-be.ne.jp

北部研修所　〒623-0012　綾部市川糸町堀ノ内
TEL（0773)43-2934　FAX（0773)43-2935
ふれあい・すこやかテレホン（0773)43-0390　月～金 10:00-19:00（祝日を除く）
E-mail　ned-center@kyoto-be.ne.jp

「総合教育センターだより」は地球環境保護のため再生紙を使用しております。
京都府総合教育センター